

環境教育の現場から <その2>

谷津干潟自然観察センター

谷津干潟について

谷津干潟は千葉県習志野市にある約 40ha の干潟である。千葉県の東京湾岸の干潟は、ほとんどが 1960-70 年代にかけて次々と埋め立てられ、工業地や住宅地として開発されたが、谷津干潟は国の所有であったために埋め立てを免れて残された。東京湾に飛来するシギ、チドリ類といった渡り鳥の希少な生息地になっていて、1993年にラムサール条約の登録湿地とされた。

自然観察センターの概要

谷津干潟自然観察センター（以下、センター）は、谷津干潟と干潟に飛来する鳥たちを中心とした観察・学習センターであり、都市化の進む中で都会に残された貴重な干潟を守るビジター・センターとなっている。センターには、来館者が野鳥観察できるように観察用の望遠鏡や野鳥図鑑を設置したり、レンジャーによる観察の案内も行っている。またレクチャールームでビデオ上映や野鳥の解説を行ったり、週末には、野鳥・底生生物・プランクトンなどの観察会を開催している。さらにセンターの展示観察コーナーには、幼児から大人まで遊びながら野鳥について学べる展示もされている。

センターにおける環境教育

センターでは小中高等学校の生徒や自然観察グループ等の団体を対象にしてさまざまな環境教育プログラムを実施している。こうした活動の実施には、センターのレンジャーだけでなく、さまざまなボランティアが個人あるいはグループとして協力している。このように、市民がボランティアとしてセンターの活動に参加することによって干潟を知る機会が増え、干潟や干潟に関連

する生態系に対する理解も深まって、それが市民による干潟保全活動の推進へつながるものと考えられる。

ジュニアレンジャー・システム

センターの実施する環境教育活動の中でユニークで実効性のあるしくみとして「ジュニアレンジャー・システム」がある。このシステムでは、小学校 3 年生以上の子どもたちを対象として、STEP 1 から STEP 3 までの課題を設定し、各 STEP を修了すると修了証と記念バッジをもらえる。STEP 1 と 2 では、カニ釣りをしてみよう、干潟の生き物観察をしよう等の体験型プログラムに参加すれば認定される。さらに STEP 3 ではさらに進んで、干潟の野鳥カウント調査（干潟を知る）、ゴミ拾い（干潟を守る）等の活動に加えて、センターのイベント実施の手伝いやジュニアレンジャーの活動紹介等（干潟を伝える）を年間通して実施し、情報発信や交流活動等も行いながらジュニアレンジャーとして成長していく。

こうしたステップ式のプログラムにすることによって、子どもたちに「リピーター」として繰り返しセンターに来てもらったり、さまざまな活動を通して幅広い知識を持たせたり、干潟を守る意識を育てたりすることにつながっていく。さらに「干潟を伝える」という活動を通して、自ら情報を発信したり、イベントの実施側の手伝いをするという能動的な行為は、通常的环境教育プログラムに「受け手」として参加する場合に比べて、子どもたちの理解をより深めたり、気づきから具体的な行動を起こすことを促進しやすい。このような手法は本センターに限らず、環境教育プログラムを実施していく上で非常に有効であり、考慮すべき重要な点である。



谷津干潟自然観察センターの正面玄関



野鳥観察用の望遠鏡



ボランティアが作成した野鳥の彫刻